

## 「いわきと岡崎を結ぶ」を聴く

毎月開催している未来茶輪（ミライカフェ）で、4月はいわき市と岡崎市を結ぶ活動をしていらっしゃる方をゲストのお迎えしました。未来茶輪は、防災に関連した話題も多いのですが、3.11を東北で体験した方をゲストにお迎えするのは初めてでした。

### ☆未来茶輪は

名古屋都市センターさんの11階にある喫茶コーナーをお借りして、毎月1回開催しています。4月で49回となりました。「まちづくり」をキーワードにゲストをお呼びしてトークを20～30分。その後質疑応答。そして、参加者全員で対話をして共有する。という流れで行っています。

お付き合いはあっても、一度、ちゃんとお話を聴いてみたかった方や、みなさんに知ってほしいなあという活動をしていらっしゃる方、告知したいことがある方などをゲストにお呼びしています。

### ☆そして4月の話題は…

嫁ぎ先のいわき市で被災し、実家のある岡崎へお子さんを連れて避難していらっしゃる女性がゲストでした。直接結びつけるのは保養（一定の期間、放射線量が低い場所へ行き、体内の放射線量を下げる）で、いわき市の子どもたちを岡崎市へとしてご招待していらっしゃいます。震災後7年経ち、参加者の意識も変化してきたので「スポーツ交流」という名目で続けていらっしゃるのか。参加者が減ってきたことや資金の課題など、時間とともに物的、精神的に変化してきているそうです。

さらに、いわきでも岡崎でも「子育て」をキーワードにご活躍というよりも、淡々とご自分の信念を実現させていらっしゃるよう感じました。

被災直後の避難の経緯や現在のいわきのことなど、体験を交えて語ってくださいました。

思った以上に復興が進んでいる場所もあれば、まだ仮設住宅に住んでいる人もいるという状況のようです。

### ☆対話のテーマは「福島の今のイメージは？」

愛知県にいと遠いイメージの福島ですが、参加者のみなさんはお話を聴いて、少し近くに感じてくださったようです。

☆一番印象に残った言葉は「頼まれたら、やる。それは、自分に返ってこなくても、自分の子どもだけでなく、子どもたちの世代に返ってくればいい」というものでした。未来を生きていく子どもたちのために、どのような社会を残していくのか？を考えるととは思いました。

